

学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

小学校	中学校
<p>「基本的な生活習慣(起床、就寝、朝ご飯)」「家庭での学習時間」「ゲームや動画視聴の時間(全国より長い)」「国語の勉強が好き」「失敗を恐れず挑戦する気持ち」「新聞を読んでいる」という項目では全国より低い状況にありました。</p> <p>反面、「自分には良いところがある」「困っている人を進んで助ける」「いじめを認めない意識」「読書が好き」といった項目は全国平均程度の状況にあり、「将来の夢や希望をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」「学習でのPC、タブレット等の活用」「理科の勉強が好き」「やり遂げる気持ち」「地域行事への参加」といった項目では、全国より高い状況にありました。</p>	<p>学習の中でICT機器を使うことは勉強の役に立つと感じている生徒の割合はとても高いことがわかりました。</p> <p>学習内容の定着はしてきているものの、日常的に家庭学習を1時間以上行う生徒は約半数と家庭学習の習慣に課題があります。また、ゲームやスマホに費やす時間が長い傾向にあります。</p> <p>「友達と協力するのは楽しい」「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」と思っている生徒の割合がとても高く、日ごろの学校生活や行事の中で目標に向かってみんなで協力し、達成感、成就感を感じることができていることがわかりました。</p>
具体的な方策	具体的な方策
<p>◇家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立を図っていきます。また、家庭学習の充実を目指し、ノートや一人一台端末を活用していきます。</p> <p>◇家庭では、家庭生活の中に「家庭学習と読書」を位置づけ、テレビやゲームをする時間と学習や読書に取り組む時間とのバランスを見直し、基本的な生活習慣が定着するよう指導願います。</p>	<p>◇家庭学習ノートの提出を呼びかけたり、定期テスト前に学習計画表を作成する活動を通して、自ら学習に取り組む習慣を身に付けさせます。</p> <p>◇学校でも継続して指導しますが、家庭でのゲームやスマホの使い方のルールを親子でしっかり話し合ってください。</p> <p>◇授業や学級活動、部活動を通して、目標に向かって協力し合ったり努力したりする大切さを考えられるように指導します。また生徒の自己肯定感をより一層高め、自信をもって物事に取り組めるよう、指導していきます。</p>

児童生徒をより伸ばすための学校の取組み(改善策)

小学校	中学校
<p>【国語】▷「思考・判断・表現」の観点に課題があることから、教師の発問に対し個人で思考し、思考内容を表現して周囲と対話しながらさらに深い思考へつながる授業を展開します。特に「表現」については語彙力や文章構成力、人前で話す機会の確保等が必要なことから、教科横断的に練習の回数を増やします。</p> <p>【算数】▷計算の意味や計算の仕方を、図や数直線などを用いて関連付けながら考え、説明できるような学習を工夫します。まとめた問題やプリント学習で基礎的・基本的な知識・技能の定着を確認し、必要に応じた補充指導を行います。</p> <p>【理科】▷実験など、児童の実体験の機会を増やし、知識・技能の能力と思考・判断の能力を結びつけていけるような授業に取り組めます。実験結果をもとに分析を行い、自分の力で学習の内容をまとめていくことができるよう取り組みます。</p>	<p>【国語】▷教科書教材の資料やデータ、図(写真)などの役割を意識させた読み取りを行う学習場面を増やします。問題の意図を理解し、条件をしっかりと確認して記述する(答える)という学習スタイルを繰り返します。</p> <p>【数学】▷単元ごとに復習する時間を多く取り入れ、小テストを積極的に行ったりして、定着を深める指導を進めていきます。また、習熟度別学習を効果的に取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導をします。個人やグループで考えさせる時間をとり、思考力、判断力、表現力が身に付くように授業を工夫します。</p> <p>【理科】▷引き続き、実験・観察を重視した授業を行ったり、自然に接する学習機会(遠足・宿泊学習や天体観測会など)の活用をよびかけていきます。体験したことがない事象について、既習の知識・日常的な現象と関連づけて考えることができる学習場面を増やします。</p>

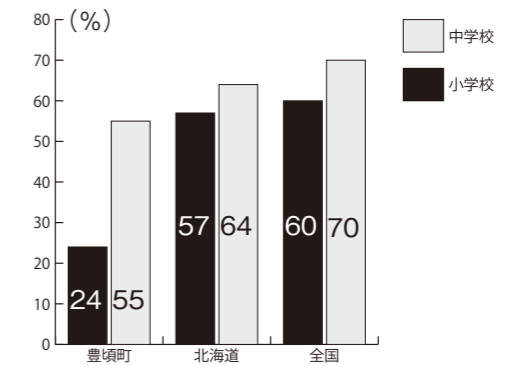
豊頃町の児童生徒の学習・生活の充実のために

- **学校では**、学習規律の定着と同時に、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得に努めるとともに、これを基盤とした分かりやすい授業づくり、宿題の質を高めるなど子どもたちが集中して学ぶことができるよう教育環境を整えます。また「主体的・対話的で深い学びへの授業改善」に努め、個別最適な学びと協働的な学びを推進し、子どもの学びの意欲を高め、その楽しさを実感させていきます。あわせて家庭とも連携して、学び方や学習習慣が身に付くよう取り組みます。
- **家庭では**、学校と連携・協力して、子どもの生活習慣等(「早寝・早起き・朝ご飯」、手伝い、テレビやゲームをする時間)を見直すとともに、家庭学習の習慣化に取り組ましましょう。
- **地域では**、学校行事や四季折々の町内行事、日常の活動場面などにおいて、積極的に活動をしている子どもたちへの温かい励ましや教育活動へのご協力をお願いいたします。

豊頃の子どもの学力等の傾向

＜小学校＞国語・算数・理科いずれの教科でも平均正答率が全国・全道平均を下回る結果となりました。国語・算数では「知識・技能」の観点では全国・全道平均を上回っていますが、「思考・判断・表現」の観点で平均を大きく下回り、本町小学生の学力における課題となっています。

学校以外で学習を1時間以上する割合



＜中学校＞国語で平均正答率が全国・全道平均を上回りましたが、数学・理科でわずかに下回る結果となりました。しかし全国・全道との平均差は僅差であり、ほぼ横並びと言えます。観点別や問題形式についても全国・全道平均に近い数値であり、大きな差はないといえます。

教科ごとの傾向

	小学校	中学校
国語	<p>◇「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域での正答率が低くなっていますが。</p> <p>◇一方、基本的な「知識及び技能」については比較的できています。</p>	<p>◇漢字について、学習漢字ノート(ワーク)を使い、小テストを繰り返し返したことで、概ね定着が図られています。</p> <p>◇一方、説明的な文章の内容を読み取り、複数の資料から情報を根拠とした文章を書けるようにする記述の問題では課題が見られました。</p>
算数	<p>◇「変化と関係」、「データの活用」が低い結果となりました。</p> <p>◇一方、「図形」の領域等、良い結果もありました。</p>	<p>◇毎授業ごとの目標を確認し、学習を進めることで、文字に数字を「代入」して計算するなど、基礎基本的な知識や技能に関する問題では正答率が高く定着が図られています。</p> <p>◇一方、理由や説明を答える「記述式」の問題での苦手意識が高くなっています。</p>
理科	<p>◇3年ごとに行われる理科では「生命」「地球」の領域で正答率が低くなりました。</p> <p>◇一方、「粒子」を柱とする領域では全国を上回りました。</p> <p>いずれの教科にもいえますが、自身の思考や判断の根拠を言葉で説明、つまり、表現することに対して苦手意識があるようです。</p>	<p>◇実験・観察を重視したことで、実験結果の状況を的確に考察し、正確に判断する力の定着が図られています。</p> <p>◇一方、実際に観察や体験ができない事象について、自分の知識を十分に活用することに課題が見られました。</p>

令和4年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語・算数(数学)・理科で全国学力・学習状況調査が実施され、分析結果が示されました。この結果を基に、教育委員会・教育研究所では町内各校の学力のより確実な定着に向けた取組を尊重しつつ、豊頃町全体の教育環境づくりの観点から子どもたちの学びを育む学校、家庭、地域の更なる連携に期待をし、下記の通り分析結果をまとめました。

令和4年度 全国学力・学習状況調査

豊頃町の児童生徒の学力や生活習慣は？

問合せ先

豊頃町教育委員会・豊頃町教育研究所
☎ 579・5801